

## 《21世紀の子どもたちに豊かな自然と住みよい環境をつたえましょう》 茨木・箕面北部丘陵地域のみどりと環境を守るアピール

いま地球環境は「酸性雨」「温暖化現象」など大きな危機に直面しています。それだけに身近な自然を守ることがなによりも大切です。

ところが残された貴重な自然である茨木・箕面の北部丘陵地域で740ヘクタール(甲子園球場の180カ所分)のみどりがなくなろうとしています。

この地域にはニホンジカ、キツネ、アナグマ等をはじめノスリ、ハイタカなどの猛禽類やモリアオガエル、ゲンジボタル、オオムラサキなど今日では貴重な昆虫類や両生類が棲んでいるなど、大阪府民全体にとっても、かけがえのない自然です。

また自然がつぶされるだけでなく、第一に市街地や市街地に向けての交通渋滞がますます激しくなり、市民のくらしや営業に大きな影響がでます。第二に開発しゅ周辺地域の整備はとり残され、農地はつぶされ、災害の危険も大きくなります。第三に出てくるゴミは今の処理施設へもちこまれ、市南部地域の公害が一層激しくなります。第四に巨額の市費負担により財政は赤字となり、福祉や教育予算がおさえられることとなります。

街づくりの主人公は住民です。

いまこそ『口のきけない野生生物に生存の余地を残し、それらの生きものたちと共存できる街づくり計画』をすすめさせましょう。

『市域全体や周辺地域の交通網の整備をもちこませるなど、市民参加による街づくり計画』にあらためさせましょう。

以上、宣言します。

1992年1月

北部丘陵開発(国際文化公園都市計画)とは  
茨木市のサニータウンから箕面市の粟生間谷にかけての丘陵地域に高級住宅とバイオテクノロジーの研究施設などを作る開発計画で、住宅・都市整備公団、大阪府、茨木市と民間企業が共同ですすめようとしている事業です。